

## 第3学年 国語科

### 1 学年の目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

### 2 内容及び内容の取り扱い

知 識 及 び 技 能		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ア 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。 又、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。 イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。 エ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。
		(2) 情報の扱い方に関する事項 ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。 イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。
		(3) 我が国の言語文化に関する事項 ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。 イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。 ウ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解すること。 エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。 オ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。
思 考 力 、	A 話 す こ と ・	ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 イ 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。 ウ 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

判 断 力 、 表 現 力  等	聞 く こ と	エ 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすること。 オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。
	B 書 く こ と	ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。 イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。 ウ 表現の仕方を考えたり資料に適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。 エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。 オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。
	C 読 む こ と	ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。 イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。 ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。 エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

## <知識及び技能>

### ① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 漢字の読みについては、第2学年までに学習した常用漢字に加え、更に残りの常用漢字の大体を読み、漢字の書きについては、第2学年までに学習した学年別漢字配当表の1,026字の漢字を文や文章の中で使い慣れさせる。
- 理解や表現に必要な様々な語句の量を増し、これまでに学習してきた多様な語句を意識的に使用し、語感を磨くことで語彙を豊かにさせる。
- 意見、感想、記録、報告、説明、解説、提案、物語など、様々な話や文章の種類について整理し、理解を深めさせる。
- 相手や場に応じた言葉遣いという観点から日常の言語活動を振り返り、これらの役割について理解できるようにさせる。

### ② 情報の扱い方に関する事項

- 具体や抽象という概念を理解するとともに、具体的な事例を抽象化してまとめたり、抽象的な概念について、具体的な事例で説明したりさせる。
- 情報を受信する際にも発信する際にも、その情報の事実関係や裏付ける証拠、一時情報の発信や発信時期など、情報の信頼性について確かめられるようにさせる。

### ③ 我が国の言語文化に関する事項

- 古典作品には背景となる歴史的な状況が存在し、作品を解説した文章やメディアなどを活用することで、世界をより深く、広く理解することが可能になる。
- ことわざや慣用句、故事成語など長く親しまれている言葉の意味を理解させることで、言葉に興味をもち、積極的に使うことができるようにさせる。
- 言葉のもつ性質に気付かせることで、日頃自分たちが使っている言葉に対する興味・関心を喚起するとともに、理解や認識を深めて通時的な言葉の変化に対する意識をもたせ

るようにする。

- 自分の身の回りにある多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、その理解を基に表現の効果を考えながら文字を書かせる。
- 新しい知識を得たり、自分の考えを広げたり深めたりすることを通して、読書をすることの意味を実感させる。

#### ＜思考力、判断力、表現力等＞

##### ① A 話すこと・聞くこと

- 社会生活の中から多様な考えを想定し、自分の知識や経験の中に材料を求めたり、時間をかけずに内容を検討したりさせる。
- 自分の立場や考えを明確にして話の構成を工夫し、相手を説得できるように論理の展開などを考えさせる。
- 自分の考え方が分かりやすく伝わるように話し方を工夫したり、場の状況に応じて言葉を選ぶなどして表現を工夫したりさせる。
- 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価する。話を評価することを通して、多様な考えを理解したり自分の考えを見直したりして、自分の考えを広げたり深めたりさせる。
- 通行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら、合意形成に向けて話し合わせる。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。

イ 互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動。

##### ② B 書くこと

- 地域社会の中で見聞きしたことや、テレビや新聞などの様々な媒体を通じて伝えられることなど社会生活全般とした上で、集めた材料の客観性や信頼性を確認させる。
- 書く目的や意図に応じ、伝えたいことを表現するのに適したものかどうかを判断して、論理の展開を考えさせる。
- 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなどして、自分の考えが伝わるように工夫させる。
- 文章を書く目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えさせる。
- 読み手からの助言などを踏まえ、論理の展開などの観点からよい点や改善点を見いださせる。
- 「書くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。

イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。

##### ③ C 読むこと

- 様々な文章の種類を踏まえて、説明的な文章の論理の展開の仕方や文学的な文章の物語の展開の仕方などを捉えさせる。
- 説明的な文章では、文章に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験などと照らし合わせて、納得や共感ができるか否かなどを考えさせる。文学的な文章で

は、登場人物の行動や物語の展開の意味を考えたり、登場人物と自分との考え方の違いを確認したりするなど、批判的に読ませる。

- 文章の構成や論理の展開が適切なものであるか、読み手の共感を得るために有効であるか、様々な表現の仕方が、文章の内容や書き手の考えを正確に伝えたり印象づけたりする上で、どのような効果を上げているかなどを根拠に基づいて判断し、その意味などについて考えさせる。
- 様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせ、自分の考えをもたせる。
- 「読むこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動。

イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動

### 3 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を通して自己を向上させ、言葉を適切に使用している。